

JICA 集団研修 えりも岬緑化事業を世界へ発信

JICA（国際協力機構）「地域住民の参加による多様な森林保全」コース研修員たちが、9月9日にえりも岬国有林を訪れました。今年度はブルキナファソ、カンボジア、エチオピアなどの11ヶ国から、主任森林管理官、森林保護管理官など12名が参加しました。

午前には日高南部署から「夢は砂漠化しない」のDVDによるえりも岬緑化事業の歴史を紹介、実際に緑化当初に使用していた道具や雑海藻類「ごた」を利用した「えりも式緑化工法」等の説明をしました。

その後、第一遊歩道、百人浜の管理塔を散策しながらえりも岬国有林の現状、取り組みについて説明しました。事業の方法や防風垣、材の活用などの質問が多かったほか、風により斜めに成長しているクロマツ林内の景色や管理塔の高台から見た蘇ったえりも岬国有林の現風景に感動し、何枚も写真を撮っていました。



午後からはえりも町長をはじめとする役場職員、ひだか南森林組合の方々をお招きし、地域住民との対話集会を行いました。

研修員からは主にコミュニケーションに係る質問が多く、「このように厳しい気象条件下でもここまで緑化できたのは、様々な人々が連携して緑化に取り組んだからだと分かった。いろいろな組織の連携はどのようにされたのか」の質問に対しては、「森林のもたらす海への影響や森林の回復が生活環境の改善につながることへの理解が地域住民にあったことから、漁業関係者であるえりも岬のほとんどの住民が自分達の生活を守るために緑化事業に従事し、それに国、町などの組織が協力した」ということに納得したようでした。また、海のない国の研修員からは「海水が川や陸に上がり被害が出ることはあるか」、海のある国の研修員からは「温暖化による海水面の上昇に係る被害はあるか」などの東日本大震災の津波被害に関連するような質問も出ていました。



最後に「町の方々や様々な立場の方々から森林の回復に取り組む話が聞けて大変貴重な機会でした。自分達の国へ学んだことを持ち帰り、役に立てたい」とのお礼の言葉をいただきました。えりも岬緑化事業が世界の森林保全に少しでも貢献できるよう、JICA 研修等でわかりやすい説明に心がけることを誓い、対話集会を終えました。